

今年も、山内流寒中水泳 からスタートです！

こんにちは。

白杵市議会議員のひきだくみこです。

ふるさと白杵が、すべての人にとって

安心して暮らせる優しい地域であるように。

そんな願いで活動しています。



2020年冬号

やさしいうすき 実行委員会

2020年4月25日、オリンピック聖火リレーが白杵を通過します。

190年以上続く日本泳法山内流を披露しながら松島神社を見上げる川幅50mほどを泳ぎ渡ります。古式泳法で聖火をつなぐのは初めての試み。白杵の自然や伝統文化が大きくアピールされます。

12月定例会が開催されました

令和元年度白杵市一般会計補正予算については、補正予算額5億1669万7000円を追加して、歳入歳出予算総額233億7014万9000円としました。

●歳入の主なものは、ふるさと納税寄付金の増加、各種農業関連の災害復旧事業費補助金など。

●歳出の主なものは、旧野津高校購入費(4270万円)、来年の三浦按針没後400年・日蘭交流420周年に向けた事業補助金など。

白杵市学校給食センターの調理業務委託料の債務負担行為6億円に対して反対討論がありました。賛成多数(15対2)で補正予算案が可決されました。

わたしは以下の点を確認した上で賛成の立場をとりました。

- 現在給食センターに勤務する職員について、今と変わらずもしくはそれ以上の条件での雇用が保障されること。
- 中長期的に市の収入が減っていく中で、財政上必要な措置であること。
- 給食センターの雇用人数の確保が安定しない中、センターにとっても職員にとっても、有効な措置であること。(例えば会計年度任用職員になると年度ごとの公募が原則となるため、雇用が安定しない)
- 現在行っているきめ細かなアレルギー対策や、安心安全な地元野菜を優先して使用することには変わりないこと(素材の調達や献立作りなど、センターの管理運営はこれまでと変わらず市が行う)



今年2学期から調理委託による給食が開始します。給食センターの見学は、今まで通り予約すればいつでもOK。試食もできますよ。給食のあり方については長期的な目でしっかり確認ていきましょう。

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標(SDGs)は、貧困や不平等格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



SDGsって聞いたことがありますか？

持続可能な開発とは、将来の世代のための環境や資源を壊すことなく、今の生活をより良くしていくことをとするものです。

すべての人の健康的な生活や福祉、住み続けられるまちづくり、格差や不平等をなくす、などを目標とした行動計画のことです。

SDGsについての質問をしました！詳しくは中面へ▼



SDGsについて



質問1 SDGsの理念を活かした持続可能なまちづくりについて

質問の趣旨

少子高齢化が進み、生活スタイルや価値観が変化して、これまでにはなかったような課題が次々と出てきています。限られた財源で効果的に事業を実施するためには、これまでの施策を取捨選択することもふくめて、本来の白杵の良さを再確認しつつ、より広い視野で歩んでいくことが肝心です。**発想の転換が必要(経済的な成長を目指した施策→真の豊かさである成熟を求めた施策へ)**

答え

SDGsは「誰も置き去りにしない」ことを約束した国際的な合意。「持続可能な目標」はすべての国にとって共通の目標であり、国が推奨する中、白杵においても積極的に推進していくことが望ましい。しかしながら、SDGsの理念は知られてきているものの、実際に施策として取り組んでいる自治体はまだ多くない。白杵は「100年後も持続可能なまち」を目指して、SDGsの理念と趣旨と同じくした様々な施策を展開しており(石仏ネット、バイオマス構想、有機農業の推進など)今年度からスタートする「第2次白杵市総合計画後期基本計画」にもSDGsの理念は十分生かされているので、まずはこの総合計画を着実に行う。(企画政策監)

SDGsはすでにあちこちで取り入れられているよ!

経済

経団連の企業憲章にSDGsが入っており、多くの企業がその理念を経営方針として打ち出している。

教育

学校・中学校の学習指導要領の前文にSDGsが入るよ。

地方創生

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」中でも地方公共団体におけるSDGsの取り組みが推進されすでに積極的な取り組みを行っている自治体がSDGs未来都市として選定されたりしています。



SDGsの特徴は、産業・経済・学校・福祉など様々な分野の枠を超えて、行政や市民が横断的に取り組むことがあります。本来地域づくりは、そこで暮らすみんなでやっていくのが当たり前のはずですが、現実的にはさまざまな分断が見られます。行政と民間の壁、ジェンダー(男女間)の壁、世代の壁、地域の壁、団体間の壁 etc。また、市役所業務も縦割りになってしまう傾向があるように感じます…。地域の課題が深刻化・複雑化するなか、立場や組織を超えて協働するのは簡単ではないかもしれません、真の豊かさを目指して連携するためにもSDGsの活用は、将来的にまちづくりの強い柱になると考えます。

質問2

環境問題について

樹木

荒廃竹林をどのように把握して対策を考えていますか?

質問の趣旨

白杵の里山や森林は確実に竹林化が進んでいるといいます。群生地が拡大すると、農業や林業に影響する、風や雪で倒れて道を塞ぐ、川に流れ込んで堆積する、水道管に巻きつくなどして家を傷める、といった多岐にわたる問題が生じるだけでなく、崖崩れ等の危険性も高まります。(土の中で浅く根を張るため)暮らしの面からも防災の観点からも、森林の健全化や里山の保全が望まれます。

答え

現在、白杵の面積の2.3%、およそ640ヘクタールが竹林であり、多くは荒廃が進んでいる。県の竹林再生事業を生かして(県が4分の3の助成)、平成26年から竹林整備を行い、これまで25.6ヘクタールの竹林を整備して年間3トンのたけのこを収穫している。地域によっては協議会を結成して、竹を伐採、その場でチップ化して買い取りしてもらうことで費用を賄っている地域もあり、このような循環型保全を参考にしながら効果的な対策を模索していく。(農林振興課参事)

例えは・・・

高山竹林整備組合

おとなり熊本県に、竹を建築材として有効活用するプロジェクトが立ち上がっており、その一端を担う形で白杵市高山の地域住民が自らの手で竹の切り出しを行っています。

※昨年半年で180トンの竹を切り出す。(→その場で業者が粉碎~チップ加工~熊本県南関町に運搬~建材を製造)

こういった組織が少しづつでも立ち上がり住民自らが動きだすためには、行政の支援も必要だと思われます。

昨年度から、森林環境譲与税も開始されました。使い方は、市に一定の裁量が任されており、荒廃竹林の整備にも有効活用されることを期待しています。

竹林の保全など環境への配慮を目的に始まった「白杵竹よい」。
竹を核として、自然との共生や循環型の暮らしを考えるきっかけになると
いいなと思います。



農業用プラスチックゴミの廃棄はどうになっていますか？

質問の趣旨

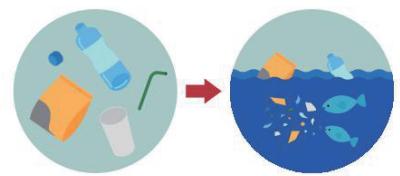
プラスチックごみによる海洋汚染は世界的な問題となっています。プラスチックは自然界ではほとんど分解されず、土や川から海に流れ込むと拡散して海洋生物がそれを取り込み結果として私たち人間にも大きな健康被害をもたらします。農業は特に多くのプラスチックごみが出る分野なので、その処理を再確認しました。

答え

ハウス用のフィルム、肥料袋、農薬容器等の廃棄プラスチックは「産業廃棄物」に分類され農業者や事業者が責任をもって処理しています。市では委託業者を通して年間95トンのゴミを回収しています。
(農林振興課長)



環境問題は、暮らしに身近な市や地域単位での活動や啓発が大切です。
自治体が、しっかりと音頭を取ることで市民の意識も変わってくると
思います。



質問3

地域資源の活用について

質問の趣旨

2019年4月「文化財保護法」の改正が施行されました。文化財の計画的保存活用と地方の文化財保護行政の強化を図るもので、文化財の継承の担い手が不足したり、文化財の十分な保護が難しい場合も増えているのではないかでしょうか？白杵市においても、歴史や暮らし、建築、自然環境、美術など、魅力ある文化財を幅広く把握して、保存と活用を図るマネジメント計画に取り組む必要があるのでは、と考えました。



白杵市での「文化財保存活用地域計画」の策定予定はありますか？

答え

今年から地域の文化財を総合的に把握する調査作業に取り掛かり「地域計画策定協議会」を立ち上げ、令和5年には国の認定を受けられるよう具体的な手続きを進めていく。協議会には、研究者や市役所担当課はもちろん、所有者、地域の方々、商工会、観光関係者、文化財の保存活用を支援する民間団体など様々な人材が参画できるようにして、地域社会総がかりで継承に取り組み、観光や雇用も広げられるような保存・活用につなげたい。(教育長)

こんな意見もありました・・・

武家屋敷の活用などにも期待したいね！

獅子舞や盆踊り、地域の祭祀など
無形の文化財継承にも尽くしてほしい。



上白杵駅・熊崎駅・下ノ江駅と白杵には築100年を超える木造駅舎が3つ並んでいます。これら駅舎の保存計画と、今後の活用計画などについて聞きました。

答え

これらの駅舎は、JRより市が払い下げを受けています。
現在、地域住民が中心となり、立ち呑み食堂やサロンとして駅舎を利用していますが、貴重な鉄道景観である木造駅舎は、他市ではすでに文化財として指定されたり、観光資源として活用されたりしているところもあることから、白杵市でも地域住民とともにさらなる活用を目指していけたらと考えています。
(総務政策監)





昨年10月から予約制乗り合いタクシー「ふじがわち号」が走り始めました。高齢化や人口減少が進む中『生活の足』をどう確保するかは喫緊の課題。丁寧な検討や話し合いを重ねた後、バスの利用率が低かった藤河内地区で試験運行が始まりました。これまで区長さんや市役所担当職員等が丁寧に話し合いを進め、住民への理解と協力を求めてきました。なるべく自宅から近い場所で乗り降りしてもらえるよう地区内に14ヶ所の停留所を設けて、病院やスーパー、公共施設に向かいます。利用状況をみた上で本格的な導入を進めています。



- 運行：月曜と木曜の週2日で5便／日
- 料金：距離によって200円または400円
- 実証期間：1年間（今年9月まで）

こんな意見もありました・・・

今はまだ運転できちんけど
そろそろ不安。
こげなんかあると助かるわ。

病院の休診日などと
重ならんごと
工夫してほしい

初めての利用に不安がある。
だれか一緒に
乗っちゃくれんかなあ



新しいことを始めるのって本当に大変。地区的熱意や区長さん方と市役所職員などの前向きなチームワークがあってこそスタートだと感じました。「ふじがわち号」を利用して買い物や病院はもちろん、社会活動にどんどん参加していただきたいですね。今後の展開に期待です。



『大分県人権啓発
推進協議会』の広報誌に
のせてもらいました

「人権教育・啓発推進協議会人権問題研修講師」として活動しています！

I'm OK You're OK

私は100%オッケーなものとして今ここに存在している。「私らしさ」は誰にも譲ることのできない大切なものです。

これは私の座右の銘です。そして私が思い描く人権の在り方でもあります。私がこの言葉に出会ったのは20年前、うつ病を経験した時です。不安定な時期に、わらにもすがる思いで読み漁った心理学の本の中にありました。以来私を支えてきた言葉ですが、今はこのメッセージを人権の学びの中から、また共に学ぶ仲間から受け取っています。ありのままの自分の価値を認めることで、他人の価値や可能性を感じることができるようになるのだと実感しています。同和問題をはじめとして、高齢者、障がい者、子ども、ジェンダーなど人権には様々な課題があります。「人権に関する県民意識調査」などの結果を見ると、従来の人権課題は少しずつ解消の方向に向かっているように見えますが、その根底にある根強い偏見が完全になくなることはないでしょう。

むしろインターネットの普及でさらに助長される恐れさえあるといわれています。偏見や考え方のゆがみは誰の心にもあり、それらが不協和音となって私たちの日常に現れることはよくあることです。日々の人間関係の中で会話を重ね、時にけんかもしながらお互いの歪みを修正したり、違いを認め合ったりできればいいのですが、実際にはそのようなコミュニケーションは薄れ、不安や息苦しさを感じている人がたくさんいると思います。自分の中の「常識」や「当たり前」にとらわれずに、おおらかな視点を持てれば柔らかな心でつながり合える。「わたしらしさ」「あなたらしさ」「あの人らしさ」たくさんの凸と凹を合わせてパズルを広げていくことで、心豊かなコミュニティが成り立つのではないでしょうか。

尊重しながらつながりあえる「共生の社会」を目指して、今日も自分のまわりからOKOKの輪を広げていきたいです、仲間と共に。

大分県生活環境部人権同和対策課 ☎ 097-506-3177

職場や地域で人権研修をしませんか？
お気軽にお問い合わせください。

最後に 議員バッジをつけるときにいつも思うことがあります。

最初の頃このバッジを付けるのが恥ずかしくて仕方なかったのです。ある人にそう言うと「それは自分の力で議員になったと勘違いしてるのでは？負託を得てバッジをつけちょんのやろ？」と言われてハッきました。そうです、みなさんの声に応えるためにバッジをつけています。正式名称：議員記章 参考価格：3000円 ※もちろん自分で買います！



様々な取り組みを
ブログで紹介
しています！

☎ 0972-63-7140 ☎ 0972-63-7186

ブログ：<https://www.hkd8.net/> ✉ kuu.okok@gmail.com

発行：ひきだくみこ(やさしいうすき実行員会会長)

自宅：〒875-0083 白杵市井村1960

事務所：〒875-0041 白杵市大字白杵70番地の16